

2021年（令和三年）

3月19日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

3/4～3/10のNYMEX・WTI先物市場は、63.83～66.09ドルの範囲で推移した。

3月11日は、前日の米国ガソリン在庫の大きな取り崩し、さらに、午後にはバイデン大統領が1.9兆ドルの大型経済対策法案に署名、成立を好感し続伸した。4月限の終値は前日比1.58ドル高の66.02ドル。

週末12日は、持ち高調整や利益確定の売りが優勢となり、反落した。また、前日発表のOPEC月報は、2021年前半の需要見通しを下方修正した。なお、米国内で稼働中の石油掘削装置は前週末比1基減の309基と前年同期の683基の半以下となっている。4月限の終値は前日比0.41ドル安の65.61ドル。

週明け15日は、最近の高値による利益確定売りや高値警戒感による持ち高調整の売りで、続落した。ただ、この日発表の米国や中国の経済指標はいずれも好調で、下値は堅かった。4月限の終値は0.22ドル安の65.39ドル。

16日は、ここ数日の高値警戒感、ドル高・ユーロ安に伴う原油先物の割高感、翌日予定の米国在庫統計での原油在庫積み増し観測、欧州各国におけるアストラゼナ製ワクチンの使用停止の動きにより、3営業日続落した。4月限の終値は前日比0.59ドル安の64.80ドル。

17日は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告が、原油は予想を下回る積み増しであったが、ガソリンと中間留分の在庫が予想に反する積み増しであったこと、また、国際エネルギー機関(IEA)の月報が、需給ひっ迫観測に懐疑的見解を示したことで、4営業日続落した。4月限の終値は前日比0.20ドル安の64.60ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は3月4日～10日の間63.10～69.30ドルの範囲で推移した。3月11日66.50ドル、12日67.50ドル、15日68.20ドル、16日66.60ドル、17日67.10ドルと推移した。

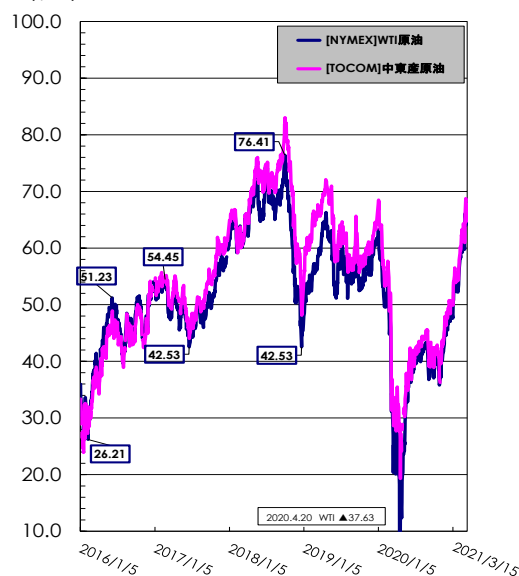
為替は3月4日～10日の間106.99～109.13円の範囲で推移した。3月11日108.52円、12日108.61円、15日109.06円、16日109.25円、17日109.14円で推移した。

財務省が3月17日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、2月下旬の原油輸入平均CIF価格は、37,279円/klで、前旬比9円安、ドル建て56.43ドルで前旬比0.18ドル安、為替レートは1ドル/105.05円。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、2月の原油輸入平均CIF価格は、36,644円/klで、前月比4,044円高、ドル建て55.80ドルで前月比5.75ドル高、為替レートは1ドル/104.41円。

そのような中で、3月15日時点の小売価格は、ガソリンが前週(3月8日)比1.2円の値上がり、軽油も同1.3円の値上がり、灯油は17円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは16週連続の値上がり、軽油も16週連続の値上がり、灯油も16週連続の値上がりだった。この週(3月第3週)の原油コストは大きく値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社、前週比2.5円の値上げとなった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/7 ~ 3/13	2,747	▲ 19	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	71.4	▲ 0.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/13	10,289	▲ 151	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/15	67.61	▼ -1.15	▲ 34.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/15	65.39	▲ 0.34	▲ 36.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月下旬	56.43	▼ -0.18	▼ -14.20
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	37,279	▼ -9	▼ -11,369
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	105.05	▼ -0.33	▲ 4.45
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/15	110.06	▼ -0.69	▼ -2.15

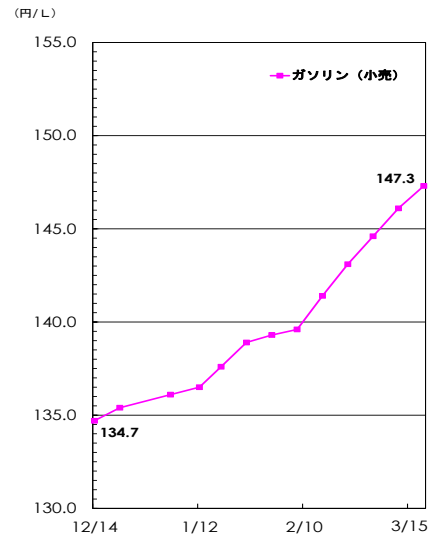
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/7 ~ 3/13	865 ▼ -6	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	830 ▼ -23	▲ -
	輸出	"	48 ▼ -75	▼ -
	在庫	3/13	1,826 ▼ -13	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/9 ~ 3/15	59.4 ▲ 1.5	▲ 14.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	3/9 ~ 3/15	58.9 ▲ 2.5	▲ 22.5
	(TOCOM/中部)	3/15	60.5 ➡ 0.0	▲ 23.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/15	147.3 ▲ 1.2	▲ 3.8

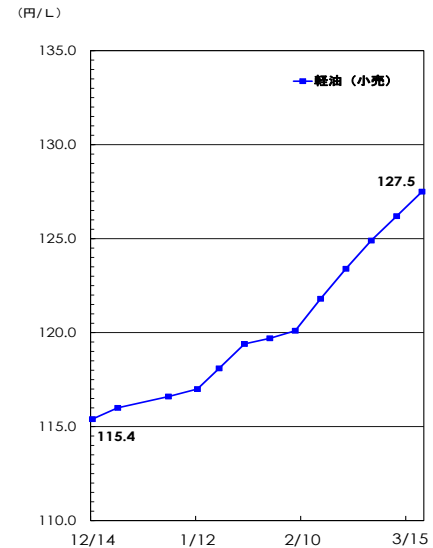
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

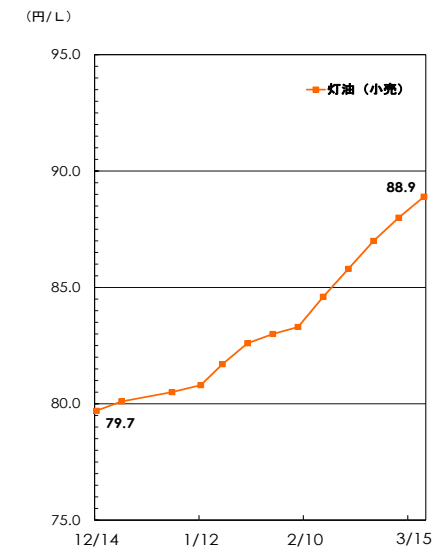
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/7 ~ 3/13	691 ▲ 54	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	614 ▲ 2	▲ -
	輸出	"	102 ▲ 50	▲ -
	在庫	3/13	1,416 ▼ -24	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/9 ~ 3/15	61.4 ▲ 1.3	▲ 9.9
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	3/9 ~ 3/15	62.2 ▲ 1.8	▲ 10.6
	(TOCOM/中部)	3/15	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/15	127.5 ▲ 1.3	▲ 3.3

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	3/7 ~ 3/13	275 ▼ -43	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	324 ▼ -102	▲ -
	輸出	"	0 ▼ -51	➡ -
	在庫	3/13	1,394 ▼ -50	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/9 ~ 3/15	60.9 ▲ 1.5	▲ 11.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	3/9 ~ 3/15	59.1 ▲ 2.3	▲ 19.6
	(TOCOM/中部)	3/15	61.0 ▲ 3.5	▲ 20.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/15	88.9 ▲ 0.9	▼ -0.9



■ 関連情報

1 海外/原油

3月17日のNYMEXのWTI先物原油は、米国石油在庫の積み増し報告や国際エネルギー機関(IEA)の原油需給逼迫への懐疑的見解が出たことから、4営業日続落した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告によれば、原油は前週末比240万バレル増と市場予想(同300万バレル増)を下回る積み増しであったが、ガソリンと中間留分の在庫が予想に反して積み増しであったことから、売られた。また、IEAは、3月の石油市場報告で、先進国の民間石油在庫が減少を続けているものの過去5年平均を大きく上回っていること、産油国の余剰産油能力が十分のあることから、需給ひ

迫観測に懐疑的見方を示したことも、値下がりが要因となった。4月限の終値は前日比0.20ドル安の64.60ドル、5月限の終値は同0.23ドル安の64.63ドル。

EIAによると、3月15日時点のガソリンの小売価格は、前週比8.2セント値上がりの1ガロン2.853ドル(82.8円/ℓ)、ディーゼルは同4.8セント値上がりの3.191ドル(92.7円/ℓ)となった。ガソリンは16連続の値上がり、ディーゼルは19週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年3月7日～3月13日に休止したトッパー能力は61.0万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は274.7万klと、前週に比べ1.9万kl増加。前年に対しては48.5万klの減少。トッパー稼働率は71.4%と前週に対して0.5ポイントの増加、前年に対しては11.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて軽油、A重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.7%減、ジェット/5.6%減、灯油/13.5%減、軽油/8.5%増、A重油/8.2%増、C重油/4.7%減。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は10.2万kl(前週比5.0万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、ジェット、灯油が減少、その他の油種で増加となった。前年比ではジェットが減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は83.0万kl(対前週2.7%減)と2週振りに減少した。ジェット6.2万kl(対前週22.5%減)、灯油32.4万kl(対前週23.9%減)、軽油61.4万kl(対前週0.4%増)、A重油23.5万kl(対前週1.6%増)、C重油18.9万kl(対前週13.6%増)。

(単位: 千KL)

	今週 (3/7 ~ 3/13)	前週 (2/28 ~ 3/6)	前週比
ガソリン	830	853	▼ -23 (-3%)
ジェット燃料	62	81	▼ -19 (-23%)
灯油	324	426	▼ -102 (-24%)
軽油	614	612	▲ 2 (0%)
A重油	235	231	▲ 4 (2%)
C重油	189	166	▲ 23 (14%)
合 計	2,254	2,369	▼ -115 (-5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月13日時点の在庫は、ジェット、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは182.6万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては0.9万kl多い。

灯油は139.4万kl、前週差5.0万kl減。前年に対しては1.5万kl多い。

軽油は141.6万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては1.8万kl多い。

A重油は66.1万kl、前週差1.5万kl減。前年に対しては6.5万kl少ない。

C重油は183.4万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては1.4万kl多い。

(単位: 千KL)

	今週 (3/13)	前週 (3/6)	前週比
ガソリン	1,826	1,839	▼ -13 (-1%)
ジェット燃料	777	757	▲ 20 (3%)
灯油	1,394	1,444	▼ -50 (-3%)
軽油	1,416	1,440	▼ -24 (-2%)
A重油	661	676	▼ -15 (-2%)
C重油	1,834	1,827	▲ 7 (0%)
合 計	7,908	7,983	▼ -75 (-0.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月9日～15日の指標原油価格は前週(3月2日～8日)比で値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、前週比2.5円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

3月9日～3月15日の製品スポット市況は、3月2日～8日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近(3/9～3/15)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは1.5円の値上がり、灯油も1.5円の値上がり、軽油も1.3円の値上がりだった。直近週(3/9～3/15)において、ガソリンは112～113円台で値上がり、灯油は60～61円台で値上がり、軽油は60～61円台で値上がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(3/9～3/15)に、前週比で、ガソリンは1.4円の値上がり、灯油は2.4円の値上がり、軽油は1.3円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(3/9～3/15)に、ガソリンは113～115円台で値上がり、灯油は58～60円台で値上がり、軽油は61～62円台で値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.5円の値上がり、灯油は2.3円の値上がり、軽油は1.8円の値上がりだった。先物価格は、同期間(3/9～3/15)に、ガソリン111～113円台で値上がり、灯油58～59円台で値上がり、軽油61～62円台で値上がりして推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	陸上ローリー 4地区平均]	今週 (3/9～3/15)	前週 (3/2～3/8)	前週比
	レギュラー	59.4	57.9	▲ 1.5
	灯油	60.9	59.4	▲ 1.5
	軽油	61.4	60.1	▲ 1.3

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	期近物/終値 [平均]	今週 (3/9～3/15)	前週 (3/2～3/8)	前週比
	レギュラー	58.9	56.4	▲ 2.5
	灯油	59.1	56.8	▲ 2.3
	軽油	62.2	60.4	▲ 1.8

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/9～3/15実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 1.5	▲ 2.5	▲ 2.0	
灯油	▲ 1.5	▲ 2.3	▲ 1.9	
軽油	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 1.5	
A重油	▲ 1.2			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月15日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(3月8日)比1.2円高の147.3円、軽油も同1.3円高の127.5円、灯油は18ℓベースで同17円高の1,601円(1ℓベースでは同0.9円高の88.9円)。ガソリンは16週連続の値上がり、軽油も16週連続の値上がり、灯油も16週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは全47都道府県、横ばい・値下がりはない。全国最安値は141.3円の徳島県(前週比1.7円高)、その次に安かったのは142.6円の宮城県(同1.6円高)、最高値は155.2円の鹿児島県(同1.6円高)だった。最も値上がりしたのは同2.7円高の滋賀県

(148.2円)・香川県(145.7円)・岡山県(144.1円)で、横ばいと値下がりした県はなかった。

今週(3月9日～15日)は、指標原油価格が値上がりし、為替レートも円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。次週(3月18日～24日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社、前週比2.5円の値上げとなった。次回調査時(3月22日)のガソリンの小売価格は値上がりが予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)		
小 売 価 格	週動向]	今週 (3/15)	前週 (3/8)	前週比
	レギュラー	147.3	146.1	▲ 1.2
	灯油	88.9	88.0	▲ 0.9
	軽油	127.5	126.2	▲ 1.3

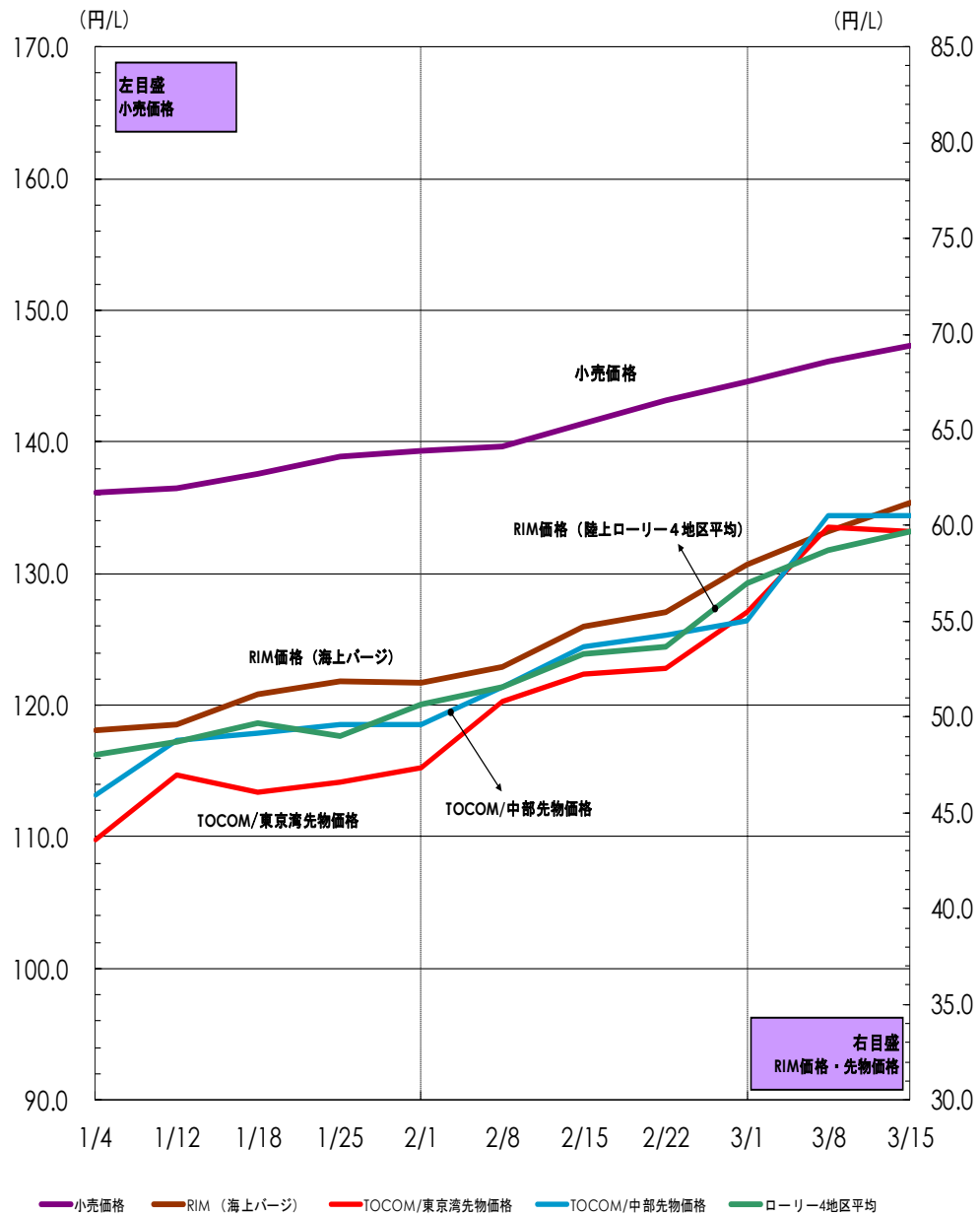
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/1/4 ~ 2021/3/15)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第37号)の公表は、3/26(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。